

地名の歴史と由来／「桃井」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

地名の変遷

「桃井」は、江戸時代、「上井草村」と呼ばれていました。また、当時編まれた『新編武蔵風土記稿』「上井草村」の項には「いかなる故にや、古へより遅野井村と唱う」と書かれています。他にも『武蔵名勝図会』「遅野井村」の項には「中古以来は『上井草』とも唱えし由」とあり、「桃井」は「遅野井村」とも呼ばれていたことがわかります。

そして明治22年(1889)、「上井草村」は「井荻村」となり、昭和39年(1964)6月の住居表示施行によって「井荻村」(後に井荻町)の一部は「桃井」となりました。住居表示の多くの町名は、旧地名を採用する中、「桃井」は、住民向けアンケートから採用された町名でした。アンケートでは「中通り」と「桃井」の2案あり、審議の末に「桃井」が採用されました。

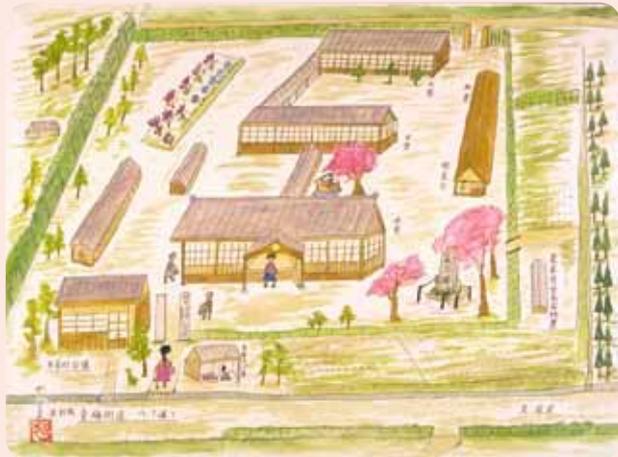


図 矢嶋又次画「桃井尋常高等小学校」杉並区立郷土博物館蔵
中央に井戸が描かれている。

「桃一小」にあった「桃の井の深き泉」

桃井二丁目6番にある「桃井第一小学校」(以下、「桃一小」)の校名は、町名よりも古く、明治9年(1876)の独立時より「桃井小学校」として「桃井」の名が使われています。

「桃一小」は、明治8年(1875)4月28日、薬王院(桃井二丁目4番)境内の薬師堂を仮校舎として設置された小学校です。当時の校名は「第三中學區第九番公立小學桃園學校第貳番分校」とい

い、中野区立「桃園小学校」(中野区本町三丁目16番)の分校でした。しかし、児童数が増えたため翌年に「桃井とうせい小学校」として独立し、新たに薬王院の隣接地に創設されました。

校名の由来について郷土史家の森泰樹氏は、著書『杉並風土記上巻』の中で「桃園小」の「桃」と、「桃一小」が位置する「遅野井村」の「井」をとったといわれていると記しています。この校名の由来について詳細は不明ですが、「井」の字は、元来、「水の湧く場所」を指す語です(『広辞苑』)。かつてより校名や地名、町名にも「井」の字が使われたことは、この辺りに水の湧く場所があったということでしょう。実際に、明治期の「桃一小」校内中央部には井戸があり、「手押しポンプ基で良質の水を吸い上げていた」



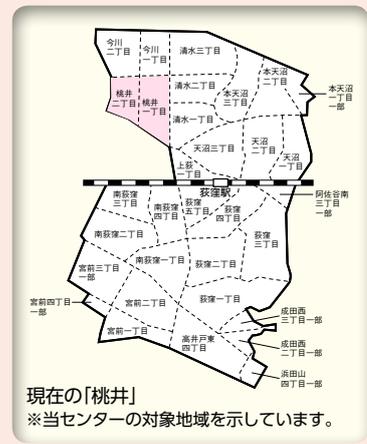
桃一小校内にある「桃乃井」の石碑(筆者撮影)

(図参照)そうです。また、「桃一小」の校歌(※1)にも「桃の井の深き泉はとこしえにまことの水がわくところ」と歌詞があります。きっと児童たちにも馴染みある井戸水だったのでしょう。現在、井戸はありませんが、創立90周年記念(昭和40年(1965))の際に、地下水が湧き出る仕組みの石碑「桃乃井」がつけられました。水の湧く姿は、新たな姿となって児童たちに見守られ続け、今や「桃乃井」は馴染みある風景となっています。

参考文献

杉並区区民部住居表示課『すぎなみのまち-住居表示33.5km²のあゆみ-』(昭和44年12月)
杉並区教育委員会『杉並区教育史上』(昭和41年3月)

※1: 桃一小の校歌は昭和10年(1935)に制定。
作詞・友田宜剛、作曲・田村虎蔵作曲



現在の「桃井」

※当センターの対象地域を示しています。